

メトアナ配合錠オンデマンドセミナー

ご自宅、病院、診療所などから、インターネットを通じてご視聴いただけます。

メトホルミンからみた糖尿病診療 — DPP-4阻害薬との併用について考える —



北里大学医学部 内分泌代謝内科学
主任教授

宮塚 健先生

| 略歴 |

1993年 3月 東京大学 薬学部 卒業
1997年 3月 大阪大学 医学部 卒業
2004年 3月 大阪大学大学院医学系研究科 情報伝達医学専攻博士課程 修了
2004年 4月 大阪大学大学院医学系研究科 病態情報内科学 研究生
2006年 7月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 博士 研究員
2011年 1月 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌代謝内科学 特任研究員
2012年 1月 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 特任助教
2013年 4月 順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学 准教授
2021年 8月 北里大学医学部内分泌代謝内科学 主任教授
現在に至る

オンデマンド配信

配信
期間

2022年 2月 7日(月) 12:00
～ 2月 21日(月) 23:59

配信
時間

30分(予定)

抄 録

経口血糖降下薬として60年以上の歴史があるメトホルミンは、海外で2型糖尿病治療の第一選択薬として推奨されています。肝臓での糖新生抑制に加え、腸内細菌を介した糖代謝改善作用等も報告されており、その作用機序に関しては未だ不明な点が多い経口血糖降下薬です。一方、一定の頻度で起こる消化器症状や、頻度は高くないものの重篤な副作用である乳酸アシドーシスが起こりうることも忘れてはなりません。

国内においては、インクレチン関連薬であるDPP-4阻害薬が最も多く処方されており、その併用薬としてメトホルミンの有用性が注目されています。例えば、DPP-4阻害薬とは異なる機序でGLP-1濃度を高めるため相加的な効果が期待できることや、配合錠を活用することにより薬剤費負担が軽減できるため、糖尿病治療の最適化に向けた選択肢の一つと考えられます。

本講演では、この「古くて新しい」メトホルミンの魅力と留意点について臨床と基礎研究の両面から考えてみたいと思います。